

第58回日本農村生活研究大会 プログラム

期 日 : 平成**22**年**11**月**18**日(木) **12:00~17:30**

19日(金) **9:00~16:00**

会 場 : 長野市生涯学習センター(長野市大字鶴賀間御所町)

大会企画のテーマ「残したい、伝えたい農村の暮らしとは何か？」

★基調報告 18日(木)13:00~15:00

「長野発、次世代へ送る農村の暮らし」

発信者 ・「だんどりの会」会長 宮本 久子 氏
・飯綱町役場 産業観光課 土屋 龍彦 氏
・いづな歴史ふれあい館 小山 丈夫 氏

★座談会 19日(金)14:00~16:00

分科会形式で2つのテーマについて話題提供と自由な意見交換を行います

- 座談会1 「生活改良普及員の経験の何を誰に伝えていくのか」
- 座談会2 「次世代を担う女性の発掘と育成について考える」

主 催 : 日 本 農 村 生 活 学 会

【第1日（11月18日・木）】

一般受付（12：00～ ）

（1）開会式（12：45～13：00）

挨拶 日本農村生活学会 会長

（2）基調報告（13：00～15：00）

テーマ「長野発、次世代へ送る農村の暮らし」

長野市飯綱町に暮らす女性グループ「だんどりの会」が、この春にまとめた『信州いづな 食の風土記』（2010 農文協）。この本には、今も健在する昔ながらの北信の暮らしがある。農村の暮らしの中で残したいもの、伝えたいものは何か。飯綱という地に暮らす人達に、それぞれのお立場から発信していただく。

発信者

- ・「だんどりの会」会長 宮本 久子 氏
- ・飯綱町役場 産業観光課 土屋 龍彦 氏
- ・いづな歴史ふれあい館 小山 丈夫 氏

進行

片倉和人・諸藤享子（NPO 法人 農と人とくらし研究センター）

（3）一般報告（15：00～17：30）

①住民個々のネットワーク形成からみた農村協働力の蓄積

（独）農研機構 農村工学研究所 遠藤 和子

②農村協働力の形成に貢献する環境点検活動の意義

－愛郷心を育むモラルキャピタルとしての地域資源－

（独）農研機構 農村工学研究所 重岡 徹

③「現代都市の青年層が魅了される《ムラ》と《農》とは何か

－新しいコミュニティ『やかまし村』の挑戦－（仮）

東京農業大学国際食料情報学部 大久保 武

④ジェンダー統計視点からみる

農業者の作目への主担当・副担当としての関わり方の検討

昭和女子大学人間社会学部 粕谷美砂子

⑤子どもの食や農への意識に関する分析

－北海道函館市を事例として－

茅ヶ崎市総務部市民課 都筑真由美
東京農業大学 間々田理彦

⑥ 食生活の構造に関する研究

共立女子短期大学生活科学科

黒澤美智子

〃

小西 亜季

⑦ 農村地域の就労の場の拡大を通じた生活者の能力発揮

ー農業分野における障がい者の就労事例からー

(独) 農研機構 農村工学研究所

片山 千栄

〃

山下 仁・唐崎 卓也・坂根 勇・石田 憲治

(4) 情報交流会 (18:00~20:00)

【第2日 (11月19日・金)】

(1) 一般報告 (9:00~11:40)

① 農産物委託販売施設における巡回集荷システムの構築と問題点

中央農研センター 特命チーム2

飯坂 正弘

② 北海道の「地域ブランド」食品に関するブランド認知構造

北海道農業研究センター

森嶋 輝也

③ 農業地域におけるイベント開催の評価と課題

ー札幌市のさくらんぼ祭りを事例としてー

札幌市立大学 デザイン学部

吉田 恵介

④ 有機農業の地域的展開を支えた女性達

ー山形県白鷹町を事例としてー

茨城大学農学部博士特別研究員

飯塚里恵子

⑤ 農業経営における配偶者間のパートナーシップとは何か

中央農業総合研究センター

原 珠里

⑥ 農村女性リーダーにとって女性のつどいとは

長野県北信農業改良普及センター

日台 修好

⑦ 国際協力に活かされる日本の生活改善経験

ー中米の事例報告ー

東京大学大学院新領域創成科学研究科

太田 美帆

⑧ アメリカと日本におけるコミュニティ支援型農業(CSA)の比較

(独) 農研機構 農村工学研究所

唐崎 卓也

(2) 学会賞授与式 (11:40~12:00)

(3) 昼食 (12:00~13:00)

(4) 総会 (13:00~14:00)

(5) 座談会 (14:00~16:00)

●座談会1 テーマ「生活改良普及員の経験の何を誰に伝えていくのか」

近年、行政の普及組織が大きく変貌を遂げ、かつて生活改良普及員を育ててきた仕組みが維持できなくなっている。これまでのように制度として機能しなくなるなかで、大切なものが失われているのではないか。それは何か。また、それを引き継ぐ新しい受け皿はあるのか。こうした問題意識のもとに、普及員を退職した後も、広い意味での普及活動を地域で展開している方々から、その活動を紹介していただき、何が今の活動の支えや原動力になっているのか、お話していただく。普及員時代の経験で得たものは何だったのか、またそれを伝えていくとしたら誰に向けてなのか、を探りたい。

話題提供： 元長野県生活改良普及員 池田 玲子 氏
元岐阜県生活改良普及員 福田美津枝 氏
元静岡県生活改良普及員 山田 璽子 氏

進行： 片倉和人 (NPO 法人 農と人とくらし研究センター)

●座談会2 テーマ「次世代を担う女性の発掘と育成について考える」

日本の農村は過疎化が進み、農業就業人口の減少および高齢化が深刻化している。農業や農村を担う若い人材の育成は僅々の課題である。なかでも、後継者のひとりとして期待される若手女性農業者 (おおむね 40 歳以下の女性) については、十分な把握と育成支援が行き届かない現状にある。一方、件数の増加とともに多様な活動を展開している農村の女性起業は、その多くが零細経営による事業体としての脆弱性と構成員の高齢化による後継者問題をかかえている。しかし、現在まで後継者の獲得に有効な手立てを見出せないままである。この後継者問題の解決策のひとつとして、若い女性の獲得・育成が考えられる。

こうした状況をふまえて、次世代の担い手として期待される若い女性へのアプローチをどうやっていったらいいのか。人材確保・育成の視点からこの課題を捉えてみたい。

話題提供： ・行政による育成支援・・・千葉県農林水産部 高野美奈子 氏
長野県北信農業改良普及センター 日台 修好 氏
・女性農業者による育成支援・・・長野県「小池学校 (農産加工起業講座)」
黒柳 博子 氏

進行： 諸藤享子 (NPO 法人 農と人とくらし研究センター)

(6) 閉会式 (16:00)

挨拶 大会実行委員長

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

○大会参加費等について

- ・参加費（要旨代を含む）

日本農村生活学会会員	4,000円
非会員	6,000円
学生会員（含非会員）	2,000円
- ・要旨のみ 2,000円
- ・情報交流会 4,000円

○ご宿泊について

各自で直接ご予約頂くようお願い致します。

○会場へのアクセス

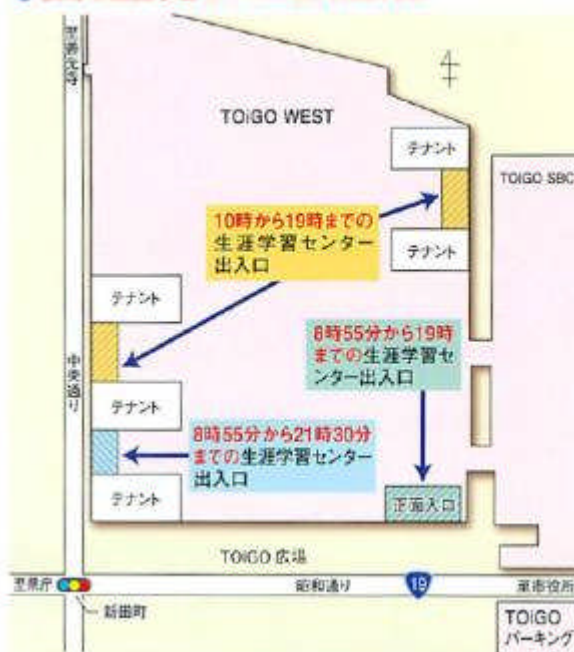
- ・JR 長野駅（善光寺口）から徒歩約 10 分
- ・バス 昭和通り下車徒歩約 1 分

○駐車場は有料です

- ・国道 19 号（昭和通り）をはさんだ南側に駐車場（TOiGO パーキング）がありますが、なるべく公共交通機関をご利用ください。



● 長野市生涯学習センター出入口案内図



お問い合わせ先：〒394-0047 長野県岡谷市川岸中1-6-56
NPO 法人 農と人とくらし研究センター内
日本農村生活研究大会実行委員会（担当 片倉和人）
TEL 0266-78-4774 FAX 0266-22-4849
E-mail: nouhito@rircl.jp

参加申し込み先：大会実行委員会事務局
TEL・FAX：029-838-7610
E-mail: xx052014@affrc.go.jp